

## 学生大使 実施報告書

氏名:後藤 早希

学部・学科(コース)・学年:医学部・看護学科・2年

派遣先大学:ラトビア大学

派遣期間:2025/2/27~2025/3/13

### 1 日本語教室での活動内容

夕方からの日本語クラスであった。16:10から開始し、90分のクラスを1日2回実施した。学生だけでなく、社会人の参加もみられた。日本語が堪能な方もいれば、日本語を話すことが難しい方などレベルは様々であった。それぞれのレベルに合わせた授業の展開を心掛けた。例えば、日本語の会話がある程度できる人とは会話を中心とした内容をした。日本とラトビアのおすすめスポットを紹介し合い、情報を共有した。日本語の単語は分かるが、うまく話せない方とは絵しりとりをし、絵の下に単語を書き、50音を確認しながら、単語を覚えた。日本語クラスに来てくれるラトビアの方々の人数に合わせて、一対一での授業の時もあったが、3~4人のグループになり、実施するときもあった。日本を知ったきっかけは様々であったが、やはりアニメやゲームへの関心は強いようである。日本語で話すときに話すスピードが速くなってしまい、相手の理解が追いつかないことがあったため、やさしい日本語で、聞き取りやすいように心がけることが大切であると気づいた。

### 2 日本語教室以外での交流活動

ラトビア料理をお店で食べるというより家で作って食べることが多いと聞き、ビーツの冷製スープが飲みたいと話したら、日本語クラスの後にスーパーで買い出しをし、アパートで料理をふるまってくれた。ディルというハーブの香りが強く、ヨーグルトの酸味を感じるスープは初めての味だった。私が現地で過ごす中で気に入ったのは、餃子のようなペリメニである。サワークリームをつけて食べると格別であった。旧市街を巡ると、聖ペテロ教会やスウェーデン門、猫の家、ブラックヘッドハウスなど歴史的建造物を見ることができた。一日の中でも見る時間帯によって、感じ取れる印象が違うと思った。広い公園がいろんな箇所があり、公園内を散歩すると、日本ではあまり見かけないような面白い遊具があり、子ども達が無邪気に遊んでいる様子に心が和んだ。また、バスケットコートで現地学生とバスケットをし、ともに汗を流した。休日は、バスや電車に乗り、ユールマラという海や動物園、ルンダーレ宮殿に連れて行ってもらった。ルンダーレ宮殿では連れて行ってくれた方が説明してくれたので、さらに理解を深めることができた。派遣期間中に「Flow」という映画がアカデミー賞受賞したこともあり、街のいたるところに「Flow」のポスターやモニュメントがあった。ラトビア国立美術館にオスカー像が展示されるのに合わせて、足を運んだ。オスカー像と並んで、ゴールデングローブ賞、インディペンデント・スピリット賞の展示もあった。世界最高の映画の祭典でラトビア初の栄冠ということで、と人々の喜びが伝わってきた。また、現地学生と日本での公開前に映画を見に行った。映像がとても綺麗で、動物の表情や行動からストーリーを読み取り、考察する点がこれまでにない感じで、新鮮であった。映画についての感想を共有でき、楽しかった。

### 3 参加目標への達成度と努力した内容

渡航前の目標は2つあった。1つは、日本語の授業に力を入れることである。ホワイトボードを活用して授業展開をした。日本語や日本の面白さを伝える努力ができたと思う。最後の日本語教室では書道体験を行った。筆を持つこと、文字を書くことに興味津々であり、持参して良かった。筆に加える力加減で、線が太くなったり、細くなったりするところに面白さを感じているようであった。2つは、知見を広め、新たな気づきを得ることであった。ラトビアで過ごしている中で、全てにおいて新鮮に感じた。看板や説明などラトビア語の表記であり、よく分からないことがあった。ラトビア語を守るため、外国語の表記を行っていないようであり、教育でもラトビア語の使用を推進しているようである。様々な歴史的背景が芸術、食などに影響を与え、ラトビアの文化に繋がっていることを知った。

### 4 プログラムに参加した感想

日本語クラスで仲良くなった友人に教えてもらったラトビア語を使って、店員さんに話しかけると、笑顔で対応してくれた。もちろん英語で会話を成り立たせることが多かったけれど、現地の言語を使ってみる意欲が大切だと感じた。初めて出会ったときはラトビアの人柄は内気であるように感じ取れるが、仲良くなるとすごくお喋りで楽しい方ばかりだった。街を歩いていて、中国人や韓国人に間違われることもしばしばあり、日本人と気づいてもらえた時は嬉しかった。アジア系の顔立ちの判別が難しいのかもしれない。中心地の雰囲気と少し移動した地域の街並みはひと味違う美しさを持ち、のどかな雰囲気であった。また、山がないため、展望台に登った時は、はるか遠くまで景色を眺めることができた。移動は基本歩きであったため、同じ道を通っても前は気づかなかったことに気づくことも多々あり、時間はかかるけれど歩くことから得られる発見も多いと感じた。ラトビアの街並みを写真に収めたけれど、実際に目に映る建造物の繊細さを収めることは難しく、その瞬間その場で自分自身が感じ取ることが大切だと思う。

### 5 今回の経験を踏まえた今後の展望

海外の視点を取り入れながら、国際交流を行い、コミュニティを広げていきたい。私が日本の良いところ、おすすめの場所などを紹介する立場に立ったとき、ひとりの日本人として紹介できるようになりたい。言いたいこと、伝えなければならないことについて相手が理解できる英語力を身につけたいと思う。そして、今後もラトビアで仲良くなった学生と交流を続けていきたい。

## 6 現地での活動写真

### 写真1

ビーツの冷製スープ



### 写真2

ラトビアの学生とカードゲーム



### 写真 3

オスカー像の展示



### 写真 4

書道体験

